

救助対象を狭めることなく救助すべきは全て救助を 大島、安塚、牧の3区に県災害救助条例適用

強い寒波の影響で市内の降雪量が一気に増えた2月10日、大島区、安塚区、牧区に新潟県災害救助条例が適用されました。

積雪量は10日現在、市のホームページによると、牧区棚田新田で4.10m、安塚区須川で4.14m、大島区菅蒲で3.88mを記録しています。(写真左上は大島区、下は安塚区)

災害救助条例の適用により市が実施した救助を求めている高齢者世帯などの障害物の除去に係る救助費用を新潟県が半分負担することとなります。

条例適用されたなかで大切なことの一つは、法適用同様、救助対象をせざることをなく救助すべき人たちを確実に救助することです。これまで議会たびたび指摘してきたように、目の前に救助すべき人がいるとき、同じ市内に子どもがいるかどうかとか、資力があるかどうかを問うてはならない。このことは日本共産党の井上さとし参院議員などがとりあげ、政府がはっきりと認めたことです。

新潟県防災局がまとめた「障害物の除去(除排雪)に係るQ&A」でも、救助対象に



ついて、「原則は自らの資力及び労力によっては除雪を行うことができない世帯である。ただし、現に救助が必要な場合は資力・労力の有無にかかわらず救助を行うこととする」としています。

私は11日、新潟県災害救助条例が適用された大島区、安塚区、牧区に入り、高齢者一人世帯などの除雪状況を視察してきました。除雪などで困ったことがありましたならば、私の携帯電話(右下に番号が書いてあります)にご連絡願います。

ガス水道局所管工事の談合問題で 住民監査請求

ガス水道局所管の本支管工事における談合疑惑に係わる住民監査請求を9日、私たち、日本共産党議員団と住民有志で行いました。

請求書では2006年4月から2011年



11月までの期間に入札参加業者間で談合が行われ、少なくとも1億5235万円の損害を上越市に与えたとして、市長は業者に損害賠償請求をすべきという勧告を出すべきだという内容になっています。

請求の提出にあたり、請求代理人の齋藤裕弁護士は、「証拠がこれだけしっかりした談合事件は稀(まれ)だ。今回は、証拠がはっきりしている部分だけを抽出して請求した。それだけでもこれだけの金額になって



【幸来花】マダガスカル原産の多年草。「こうらいか」と読みます。花の色はオレンジ色で、下の方へラッパのように開いています。読者の方からどんな花か写真を載せてと言われましたので掲載します。私のホームページを見ると、カラーでご覧いただけます。

藤野衆院議員迎え、県議会に春を呼ぶ集い開催

日本共産党上越地区委員会は総選挙後の国会情勢を学び、県政の課題を語るつどいを開催します。藤野保史新衆院議員が国会報告をし、私も県政を中心に語ります。参加費は無料です。送迎もしますので、ぜひご参加ください。



日時：2月22日(日)
午後4時～5時半
場所：頸城区希望館大ホール

請求書を提出後、記者会見も行いました。私は、「談合疑惑発覚から1年以上が経過したが、解明の動きはいまだに見えてこない。今回の請求は、疑惑解明への重要な一歩となる。監査結果次第では訴訟も視野に入れていく」とのべました。

いる。2つの事業者が勇気を持って告発してくれたおかげで監査請求できたが、これは氷山の一角だ。こうした氷山の一角を適切に処理していかないと、海の中に沈んでいる談合を止めさせることはできないだろうと思う。せっかくなので機会を監査委員会で作らして、談合撲滅のためにきちんと動いてほしい」と訴えました。

はしづめ法一の
活動レポート

No.1696 2015.2.15
発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628 吉川有線 4867
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第三四四回

枯れ木

吹雪の朝でした。風が強く吹いて、ビュービューという音がしていました。この日は久しぶりに除雪車が出動しました。路面は凍っていて、すべりやすく、とても危険な状態でした。

アラスカのことを書いた星野道夫の『めぐる季節の物語』を前日の夜に読んだばかりの私は、この本の短いエッセイ、「春」に書かれている枯れ木の話が強く印象に残っていました。倒れたシラカバの枯れ木にはリスが小さな穴を利用して作った巣があり、巢の底には断熱材が入っていたという話です。

私はこの話を讀んだその時から一本の枯れ木のことを頭に浮かんでいました。それは私の事務所の近くの林の縁にある大きな木です。最近、枯れてきていることに気づいていたのですが、私は本に出てきた枯れ木とこの木を重ねて頭の中でイメージを膨らませていました。ひよっとすると、私が見た枯れ木にも穴があって、リスかムササビがいるんではないかと思ひ始めたのです。

いったんそう思うとずっと気になるのは私の性分なのでしようか、朝起きるとすぐにこの木に向かいました。

そばまで行って、改めて木を見ました。あちこち皮がはげています。苔のような緑のものが、下から上までずーっと木の表面に張り付いています。ツルも下の方からいくつも上の方に伸び上がっています。そして、あれっと思つたのは、皮のはげたところの色です。ピンク色になっていたのでした。いままでもこんな色だとは知りませんでした。ひよっとすると前は別の色だったのかも知れません。

木の上部を見ると、木の先っぽがゆらゆらとゆれています。風にゆられているのでしようが、いまにも一部が落ちてきそうな感じがしました。再び目を幹の下の方へ動かすと、枝が大きく分かれているところに、深い割れ目ができていました。ただ、これはリスなどが入るには狭すぎました。他にも穴はありましたが、小さなものばかりです。

それならば、幹の上の方はどうだろうか。パンパンパンと、木の幹を手のひらで四回たたいてみました。反応はありません。もう一度パンパンパンとやりました。やはり駄目です。残念ながらリスなどがある気配はありませんでした。

木の裏側の方にも回ってみました。風で雪が木に吹き付けられ、三〇センチくらいの幅でずっと上まで白くしています。

そのまま上の方を見ていたら、なんとということでしょう、枯れた木は一本だけではありませんでした。すぐ傍にある杉も一本枯れています。さらにその奥には、何という名前の木でしようか、人間の両手でひとかかえもある大きな木が枯れていました。この木も上の方でゆっくりゆれていて、いつ倒れてもおかしくないくらいです。私が手でちよっと押せば倒れてくるかもしれない、そんな感じすらしました。

雪が一センチほど積もった林の中を歩いてみると、この林の中の木のほとんどは幹の直径が二〇センチから三〇センチほどのものです。そして、まだ芽を出してから二、三年しか経っていないナラの木もありました。

これらの木々にカメラを向けたとき、はっとしました。林の中にあつて、小さな木は周りの大木が枯れていかに限り、育たないのです。私はもう一度、倒れそうな大きな枯れ木を見上げました。太い枝を横に二本広げた姿がとても大きく見えました。

暮らしを守る県政求め盛り上がる

2月8日の午後から、直江津と高田で日本共産党地域後援会主催の新春のつどいがありました。県議選告示まで2カ月を切った中、いずれも会場でも暮らしを守る県政目指

し、大いに盛り上がりました。どちらの会場でも私は、総選挙の結果、衆参両院で議案提案権を獲得した日本共産党の国会議員の活躍ぶりを紹介し、県議会でも5議席獲得で議案提案権をと訴えました。また、私の活動の原点とも言うべき、雪との闘いや貧困について振り返り、県議会で、原発再稼働ストップ、農業振興、身近な県議会づくりをさせてほしいとのべました。

直江津会場では、田村実行委員長が私の随想、「春よ来い」の「幸来花」（幸せを呼ぶ花）を紹介、「政治にも春を！」と訴えました。上野市議（党地区委員長）も間近に迫った県議選についてふれ、必勝に向けて頑張る決意を表明しました。会場ではしばらく会えなかった人とも再会しました。柳川月さんもその一人、うれしかったですね。乾杯の音頭をとったのは笠原文人さん、90歳です。とても



元気でした。

高田会場では、「はしづめ法一物語」をスライドで紹介してもらいました。赤ちゃんの時や青年時代の写真まで出してもらい、まるで結婚式のようなものでした。最後は平良木市議、NHKの「小さな旅」に登場した大工、上野さんと共にガンバロウを三唱しました。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	2月4日(水)	2月11日(水)
上越南消防署	0.043	0.040
上越北消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.050	0.040
頸北消防署	0.043	0.050
頸南消防署	0.043	0.050
東頸消防署	0.050	0.047
高士分遣所	0.040	0.043
名立分遣所	0.050	0.050